

## ギリシャ経済概況(2021年5月号)

### 1 経済動向

- ・5日、ギリシャ公的債務管理庁(PDMA)は5年物国債を発行し、30億ユーロを調達した。オファーは200億ユーロにも上ったが、投機的なファンドの参加は限定的だった。利回りは0.17~0.2%と非常に低い数値となった。
- ・経済産業調査財団(IOBE)のレポートによると、4月の景況感(97.9ポイント)となり、3月の96.9ポイントからさらに改善した。産業別では、小売業が好調で、製造と建築部門も緩やかな改善が見られた。
- ・10日、アテネのザピオンにて第6回デルフィ経済フォーラムが開始された。同フォーラムで議論されるテーマは、ギリシャ独立戦争200周年、地政学的・国際的安全保障、世界経済、欧州の未来、気候変動と持続可能性、人・組織・社会、テクノロジーと開発の将来、ギリシャの改革と持続可能な発展、医療、教育とトレーニング。ミツオタキス首相とサンチェス西首相の協議や、ユンカー前欧州委員長とトウスク前欧州理事会議長の協議などをはじめとし、多くの著名人が議論を交わした。
- ・ペトロス・ペトロプロス・グループ(クボタ代理店。他にもISUZU、SCANIA、KOGEL、LAND ROVER等様々なブランドを取り扱い、商品ラインナップも自動車、トラック、バス、エンジン、バッテリー、タイヤなど様々)の2021年第1四半期の財政状況は好調で、総売上高は2900万ユーロで前年同期比34.2%増となった。
- ・10日、欧州委員会のドムブロウスキ副委員長は欧州議会にてEU復興基金に関する一連の質問に対応する中で、EU復興基金の資金供給は7月から開始できると述べている。資金供給にあたっては、各国の復興計画に示された改革事項の遂行が必須条件になることを強調した。
- ・11日、デルフィ経済フォーラムで、スクレカス環境・エネルギー大臣がエネルギー投資について語り、ギリシャでは再生可能エネルギーの普及率を60%以上に上げるためのプロジェクトを多角的に推進、天然ガス網の拡大やエネルギー貯蔵施設の設立、島嶼間の電気接続プロジェクトなどが進められていることを説明した。
- ・格付け会社フィッチはギリシャ銀行に対する信用格付け評価を引き上げ、ユーロバンク「B-」/見通しポジティブ、ナショナルバンク「B-」/見通しポジティブ、アルファバンク「CCC +」/見通しポジティブ、ピレウスバンク「CCC +」(ピレウスバンクのみ見通しの記載なし)とした。
- ・格付け会社ムーディーズは、ピレウスバンクの長期債務格付け評価の見通しを「安定的」から「ポジティブ」に引き上げた。格付け評価は Caa2。14億ユーロの増資により、バランスシートの再構築の道が開けたと評価した。
- ・12日、欧州委員会は春の経済見通しを発表した。見通しによると、ギリシャの2021年の成長率は4.1%、2022年は6%の予測。ワクチン接種の進捗とともに規制緩和が進み、個人消費が増加、観光も回復し輸出も改善、とくに2021年下半年から復興計画のプロジェクトが開始されることで経済が活発化するだろうとしている。失業率に関しては、様々な救済措置により増加を抑えているものの、回復はもう少し後になる見込みで、2022年に16.1%程度に縮小するだろうと予測している。
- ・12日、ミツオタキス首相は、欧州安定メカニズム(ESM)のレグリング総裁と会談した。同首相は、パンデミック下においてもその後の回復に向けて改革の歩みを止めず、投資誘致のための構造改革を怠らなかったと述べるとともに、ワクチン接種は加速度的に進められ感染者数も減少していることを強調した。
- ・12日、スタイクラス財務大臣もレグリング総裁と会談し、同総裁はギリシャの経済成

- 長は債務の持続可能性を維持するために不可欠であり、ギリシャの公的債務の約55%を保有しているESMにとって、ギリシャの成功は我々の成功を意味すると述べた。
- ・14日の観光シーズンの正式な再開に向けて、ピレウス港湾機構(PPA)は準備を行っている。2019年に100万人以上の乗降客がピレウス港を利用したが、2020年は新型コロナウイルスの影響で84%減少した。
  - ・14日、第6回デルフィ経済フォーラムにおいて、スタイクラス財務大臣は「2023年の上半期にギリシャ国債の投資適格級を獲得することは、政府の中心的な政治目標である。」と述べた。
  - ・18日、ギリシャ統計庁ELSTATが発表した数値によると、企業の売上高は、今年の671億6千万ユーロから635億6千万ユーロに落ち込んだ。最大の下落を被ったのは芸術・エンターテインメント産業で、売り上げは70.4%の減少であり、同業界は依然として閉鎖状態である。次に飲食・観光業が続き、第一四半期に53.9%減少した。
  - ・キクラデス諸島の電気接続工事は第4フェーズにまで進み、10島のうちすでに5島の電気接続が完了している。第4フェーズでは、サントリーニ島、ミロス島、フォレガンロス島、セリフォス島がメインの配電システムに接続される。
  - ・19日、EUは新型コロナウイルスの影響により困窮している中小企業支援のための7億9300万ユーロの補助金をギリシャに対して承認した。本件補助金の対象は、金融を除く全てのセクターである。対象条件を満たす企業は、8ヶ月間資金繰り支援を受ける予定である。
  - ・19日、ヨルギアディス開発・投資大臣は、テサロニキにあるファイザー社のハブ施設を訪問し、新たに開設予定の第2ハブ施設について説明を受けた。ハジマノラキス代表によると、第2ハブはテサロニキ東部にある商業センターEast Plaza内の4棟のビルに置かれ、今年9～10月頃に移転を開始、2022～2023年にかけて段階的に運営が開始される見込み。
  - ・クレタ島と本土の電力網を結ぶため、ペロポネソス半島南部からクレタ島北西部まで174kmにおよぶ海底ケーブルが海に沈められた。夏には送電が開始される予定。
  - ・26日、ギリシャ大手食品会社「チピータ」(クロワッサンやスナック菓子で有名)がMondelez International(モンデリーズ・インターナショナル、米国の食品・飲料会社)に買収されることが明らかにされた。買収額は20億ドル(約16億4000万ユーロ)とされているが、公正取引委員会などの承認が必要となる。
  - ・27日、ギリシャ最大の石油精製会社ヘレニック・ペトロリアムは、交通需要の減少と新型コロナウイルスによるロックダウン措置により、第一四半期の純利益が53%減益したと発表した。
  - ・28日、欧州委員会で予算を担当するハーン欧州委員は、2021～2027年のEU予算が全加盟国で承認された旨を発表した。発表の中でハーン委員は、ギリシャの復興計画は6月に委員会によって承認され、7月には約40億ユーロが事前に支払われる予定であることを表明した。

## 2 財政

- ・ギリシャ中央銀行のデータによると、1～4月の財政赤字は93億8000万ユーロに膨らんだ。歳出の増加(221億7000万ユーロ)が主な要因。また、プライマリーバランスは61億ユーロの赤字となった。なお、前年同時期の財政赤字は60億ユーロ、歳出額181億ユーロ、プライマリーバランスは26億ユーロの赤字だった。
- ・25日に発表されたスタンダード&プアーズの報告書によると、借り入れコストの上昇に伴うギリシャ財政への影響は限定的である由。同報告書に含まれる18の先進

国の多数と同様に、ギリシャは利子率上昇に伴う主要な影響を吸収できるであろうと述べている。

### 3 輸出入

・ギリシャ統計局のデータによると、3月の輸入額(石油製品含む)は54億2840万ユーロで前年同月比31.6%増、輸出額は33億3810万ユーロで前年同月比34.6%増となった。1~3月の輸入額は134億9000ユーロで前年同期比1.9%増、輸出額は87億5600万ユーロで前年同期比9.6%増となり、貿易収支は47億3400万ユーロの赤字、前年同期比9.8%減となった。

・ギリシャ中央銀行が発表した国際収支データによると、2021年第1四半期の経常収支は27億3700万ユーロの赤字となった。前年同時期は35億6300万ユーロの赤字だった。サービス収支は7億8820万ユーロの黒字となったが、観光収入はわずか8270万ユーロ、輸送も35億5140万ユーロに縮小した。貿易収支は輸出が84億2000万ユーロ、輸入が134億8610万ユーロで50億6600万ユーロの赤字となった。

### 4 観光

・TUI(独企業ツーリストティック・ユニオン・インターナショナル)は、14日に6便をギリシャに飛ばし、更に翌週は60便を飛ばす予定だと述べた。5月末までのギリシャ行きフライトは合計120便の由。これは15日にギリシャが観光業を再開するのに合わせての措置であり、ギリシャ観光業界会長は、観光業の再開はギリシャにとって死活的に重要であると述べた。

・13日、政府は観光業再開の条件を発表した。前日時点まで国際的な観光客はゼロであり、14日から再開されるが、2020年の旅行客数は、2019年比60%から75%減、2021年は2019年比50%から60%減になる見込みである。

・17日スタイクラス財務大臣は4億ユーロ相当の追加財政支援パッケージにより、ギリシャの主要産業の観光業を支援すると述べた。

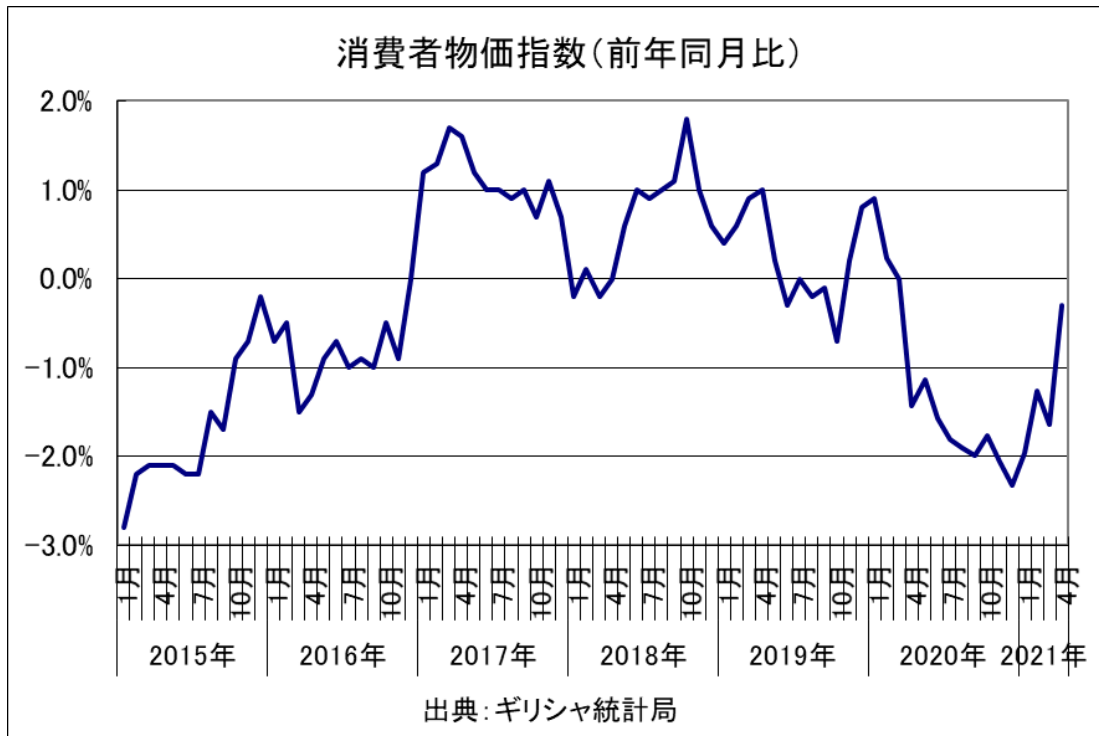
・21日、ペロニ政府報道官は、今年の観光客の訪問者数は、昨年新型コロナウイルスの影響により最悪の観光シーズンを経験したあと、2019年の半分程度になると予想していると述べた。

・25日にオンラインで開催されたポシドニア・シー・ツーリズムにおいて、国際クルーズ船協会 CLIA のグローバル理事長で、MSC の理事長であるヴァゴ氏は、「クルーズ業界は、ある種の信頼を染み込ませる観光商品として(クルーズ業を)発展させ、新型コロナウイルスの影響に十分に準備している安全な目的地としての(クルーズ業を)発展させているギリシャの努力を賞賛している。」と述べた。

### 5 経済指標

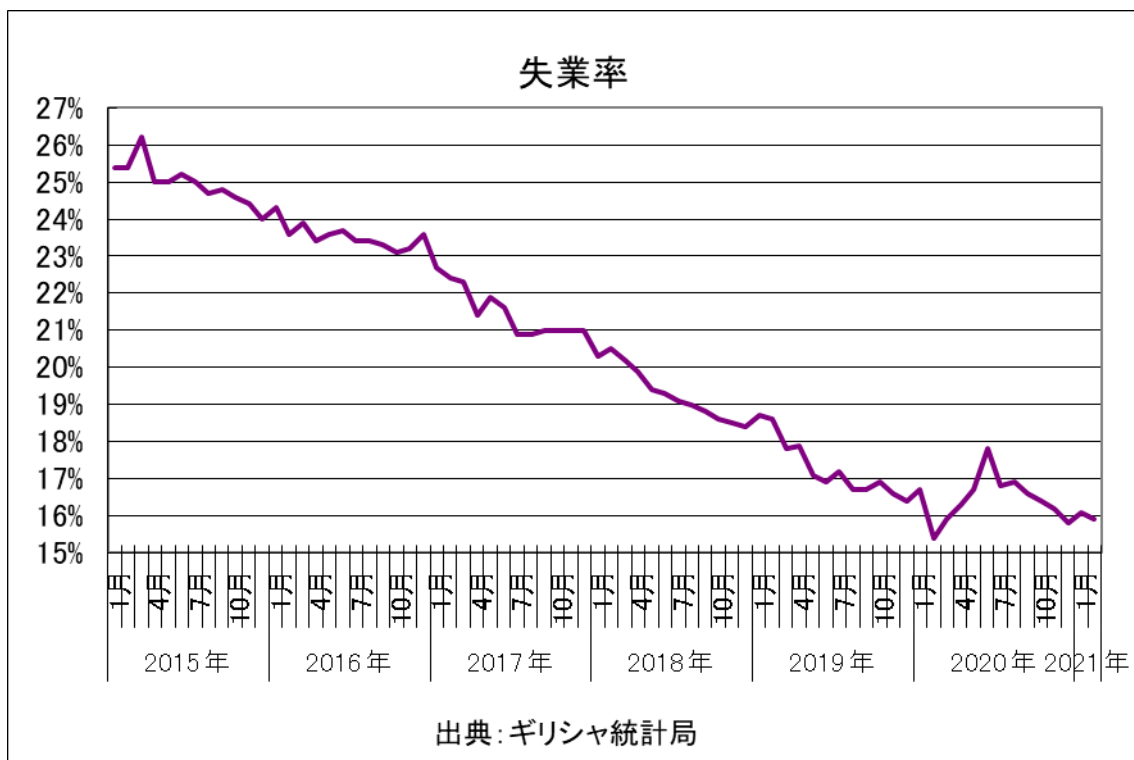
#### (1) 消費者物価指数

ギリシャ統計局の5月12日付の発表によると、4月の消費者物価指数は前年同月比0.3%減となった。



#### (2) 失業率

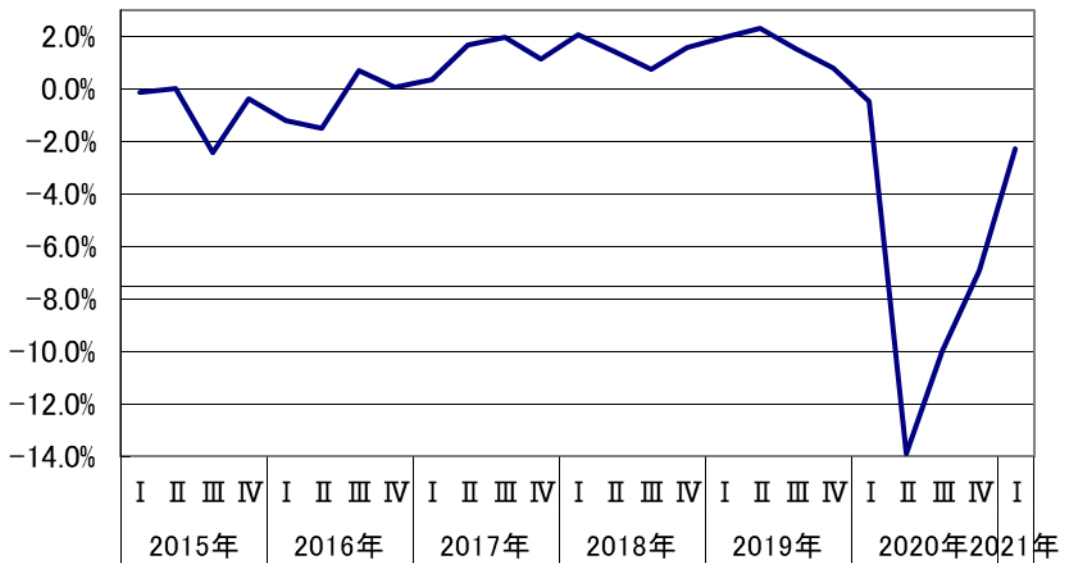
ギリシャ統計局の5月28日付の発表によると、2月の失業率は15.9%となり、前月から0.2%減少した。



#### (3) GDP

ギリシャ統計局の6月4日付の発表によると、2021年第1四半期(1~3月)の実質 GDP 成長率は前年同期比マイナス2.3%となった。

実質GDP成長率(前年同期比)



出典:ギリシャ統計局

(了)